

釜石市復興まちづくり基本計画

スクラムかまいし復興プラン骨子（案）

子どもたちの未来に贈る新たな希望の「光」づくり

- ・スクラムかまいし復興プラン骨子（案）に対し、釜石市民の意見を組み入れながら加筆修正を繰り返し、9月を目途にスクラムかまいし復興プランを策定していきます。
- ・現段階では国や県の施策方向が未詳なこと、協議調整を行っていないため、施策方向や協議調整を行いながら、スクラムかまいし復興プランを策定していきます。

平成 23 年 7 月 8 日

釜 石 市



「撓まず屈せず」

平成 23 年 3 月 11 日の発災後、3 ヶ月を経過しました。いまだに、多くの方々が避難所での生活を余儀なくされていますが、仮設住宅での生活を始められた方々もいらっしゃいます。まちでは、がれき処理や都市施設の再建が進められ、震災前の機能を取り戻すまでには、まだまだ相当の時間が必要です。

一方で、このような復旧作業と並行して、復興まちづくりにかかわる様々なとりくみが始動しています。たとえば、従前からの人と人のつながりや地域コミュニティを活かした様々な活動が展開されています。また、市外・県外からも多くの方々が応援に訪れ、様々な支援をいただき、新たな絆が築かれています。

このような市民や支援者の力を結集して、復興に向けたビジョンと取り組みを検討するため、復興まちづくり計画の策定作業に取りかかりました。復興に向けた議論や行動が確かな復興へと結実するように、決して撓むことなく、屈することなく、復興を果たすべく邁進してまいります。

釜石市長 野田 武則



目 次

釜石市復興まちづくり計画とは	1
1 復興ビジョン	3
1-1 基本理念と目標像	3
1-2 基本方針	6
1-3 復興まちづくりの基本目標	8
2 新たな光づくりへの挑戦	9
3 震災をのりこえる地域づくりの推進	12
3-1 同じ悲しみを繰り返さないために	12
3-2 被災地域復興の考え方	15
3-3 復興支援地域活性化の考え方	25



釜石市復興まちづくり計画とは

計画策定の趣旨

釜石市復興まちづくり計画（以下「本計画」という。）は、被災地域の早期復興と新しいまちづくりに向け、関係者が共通の認識を持って取り組むための「まちづくりのビジョン」とこれを具体化するための「施策」をまとめるものです。

策定の過程において、委員会、懇談会やワークショップなど様々な会議を通して、市民の意見を取り入れながら、市民目線に適った計画を目指すものです。

計画の性格及び役割

本計画は、現時点で釜石市のまちづくりの指針を示す総合計画が未策定であることから、今後のまちづくりの基本的な方向性を示す、総合計画に準ずる役割をもつ計画として策定します。

また、施策の推進にあたっては、市民、事業者及び行政それぞれが果たす役割を明確にし、協働のもとでのまちづくりを推進する際の目安とします。一方、国や県に対しては、関係する施策への理解を求め、その促進を図るための役割をもちます。

この計画に基づいて多様な議論が展開され、さらに発展した計画に進化することを目指します。

計画期間

本計画は、これまでに経験したことのない深い悲しみから立ち上がり、新たな光となるこれからの釜石のあり方を展望しながら、今後 10 年間で計画期間とし、途中の短期 3 年、中期 6 年それぞれに中間目標を定めます。

なお、計画期間については、できるだけ早期の復興を果たすべく、できるだけ短期間に設定する必要があります。その一方で、本計画は総合計画に順ずる役割を持つこと、現時点では国の復興に向けた具体的な取り組みが未詳なことから、計画期間を 10 年間としています。今後、国が示す復興に向けた具体的な取り組みなどを踏まえながら、一日も早く「復興宣言」を出せるよう、計画期間を適宜前倒し調整していきます。

計画の課題

被災地域の 1 日も早い復旧と復興を図るとともに、過去の歴史に学び、英知と総力を結集し、釜石市が有する様々な資源を活用しながら、地域の新たな活路を見出していく必要があります。

1 復興ビジョン

1-1 基本理念と目標像

(1) 基本理念

私たちのまち釜石は、三陸の雄大な自然に抱かれながら、人々が心豊かな暮らしを営んできた美しいまちです。人々はこれまでいくたびの災害や戦災をも不撓不屈の精神で乗り越え、この力強い意志のもと、輝かしい歴史を持つふるさとを築きあげてきました。

しかしながら、平成 23 年 3 月 11 日に、予期せぬ悲劇がこの地を襲いました。この日を境に、まちの景色は一変しました。世界最大級の地震と大津波で多くの市民が犠牲になり、残された私たちは、これまで経験したことのない深い悲しみの中にいます。

この悲しみと鎮魂への想いをこれからのまちづくりのすべての出発点とし、この悲劇を二度と繰り返さないことを決意するとともに、時には猛威をふるう自然を単に押さえ込もうとするのではなく、また侮ることもなく、常に私たちに寄り添う崇高なものと捉える、自然に対して畏敬の念を持ったまちづくりが必要であると考えております。

一方で、私たちのまちは、震災前から少子高齢化が進んでおりましたが、震災により、こうした傾向がさらに顕著になることも考えられるなど、これからは、これまで経験したことのない震災後の経済・社会情勢の変化にも対応していかなければなりません。

このようなことから、震災を契機に、これからの暮らしや仕事の再建を図り、新たな地域社会を創りあげていくうえで私たちが取り組むべきことが 3 つあると考えます。

1 つ目は、忘れかけていた、失いかけてきた人や地域の絆や、津波でん

でんこなど地域で語り継がれてきたことの大切さをもう一度思い起こすための「人々の意識や行動のあり方への喚起」です。市民一人ひとりが他に頼りきることなく、事の重大さを自ら判断して対応しながらともに助け合う自助・共助の精神を喚起する取り組みです。

2つ目は、人々がこの地に住み続けるための「希望と可能性の追求」です。いま釜石は、先の見えない危機的状況にあります。この危機を克服し、これからも持続可能な地域としてあり続けるために、これまでにない発想をもって地域振興を図り、新しい釜石を創らなければなりません。そこでそれを為しうる人づくりを行うとともに、その人と人とのネットワークを形作って新たな「つながり」を創出し、高齢者が先行きに安心感を持ち、子どもや若者が将来に光を見出す、希望の創造と未来の可能性を追求する取り組みを行います。

3つ目は、日本の近代製鉄発祥の地としての「歴史に学ぶ先駆けとなるまちづくり」です。わが国の産業発展の礎を築いた私たちのまちの輝かしい歴史を再認識し、三陸沿岸をけん引する、ひいては日本の未来を切り拓くという気概を持って、これからの時代や国の進むべき方向を指し示す先駆的なまちづくりを行う取り組みです。

こうしたまちづくりに心を一つにして市民総参加で取り組み、次世代に誇りうるまちを創っていくことを本計画における基本理念とします。

(2) 目指すべき地域の将来像

釜石市は、製鉄や漁業などを中心に、ほかの市や町にさきがけた先進的なまちづくりが行なわれてきた歴史があります。また、津波や戦争による被害をのりこえてきた歴史もあります。こうした歴史に学び、次世代に誇れる先駆的技術の導入や地域の絆を中心に据えた美しいふるさと釜石の再興は、多くの人の共通の願いです。市民一人ひとりが手を取りあって、また私たちのまちを応援してくれる多くの人の力を借りながら、「三陸の大地に光輝き希望と笑顔があふれるまち釜石」を目指して、力強い一歩を踏み出します。

目指すべき地域の将来像

三陸の大地に光り輝き希望と笑顔があふれるまち釜石

被災した三陸の地で、

美しい海や山や川の豊かな環境のもと、

ものづくり産業や水産業が力強く、復活・発展し、

人々の笑顔が輝く、

希望に満ちたまちを目指します

(3) 計画の推進

本計画は、市民総参加により、一日も早い復興を果たします。

国や岩手県との連携、これまで築き上げてきた市民活動・民間企業などの多様な連携、被災を契機に全国各地との間に新たに生まれた多様な連携・連帯をさらに発展させながら、本計画をより力強く推進していきます。

1-2 基本方針

災害との闘いに終わりはありません。私たちがこれからも美しいふるさと釜石で暮らし続けるためには、これまで防浪施設といったハードに頼りがちだったまちづくりの方針を足元から見直さなければなりません。安心した暮らしを取り戻し、未来を担う子どもたちの笑顔が輝く釜石にしておくため、多くの犠牲から得た教訓を活かし、市民の総参加のもと、東日本大震災からの復興を果たします。そして、より強く、より魅力的で希望のもてるまちづくりを実現していきます。

(1) 災害に強い都市構造への抜本的転換

今回の津波災害によって破壊された防浪施設の復旧に加えて、道路や鉄道などによる二重、三重の津波防御のしくみ、津波に対するしなやかな土地利用、誰もが直感的に逃げ込める避難路や避難場所の整備など、あたりまえのこととして避難できるまちのしつらえにより釜石市民の生命・財産を災害から守っていきます。

そして、大津波により破壊された防浪施設を目のあたりにした私たちは、これらの防浪施設に頼るだけではなく、個人自らの力で、あるいは家族・地域がともに支え合いながら、生命を守り抜いていくことが何よりも大切だということを学びました。このような、個人の意識化や、人と人のつながり強化など広い意味での『災害に強い都市構造』へ抜本的に転換していきます。このため、防災教育などをおして、今回の大津波で経験し言葉にし難い深い悲しみを教え伝える防災意識の継承により、あらゆる災害から釜石市民や地域を守るしくみを実現していきます。

(2) この地で生き続けるための生活基盤の再建

この地で生き続けるために欠かせない生活基盤を早急に再建するため、

災害で失われた住宅や商店、医療・福祉施設、生活関連公共施設、地域コミュニティなどの復旧・復興を推進します。

また、がれき処理や仮設住宅での生活環境、コミュニティ維持など復旧の過程で直面している課題に対応しながら、力強い復興を果たします。

(3) 逆境をバネにした地域経済の再建

大津波は、生産活動や地域経済に対し、これまでにない大きなダメージを与えています。このダメージから速やかに復旧し、さらなる発展への足掛かりを得るため、逆境をバネにした地域経済の再建を最優先に進めていきます。持続性に欠ける災害復旧、復興関連事業に頼ることなく、新たな産業をも興し、釜石の未来を担う子どもたちが夢と希望を持てる取り組みを最優先に進めていきます。

(4) 子どもたちが未来に希望を持てるまちづくり

私たちは、大津波からの避難誘導を見事に果たした、世界に誇れる子どもたちの存在を再認識しました。この子どもたちの勇気ある行動が、世界中の感動を巻き起こしたことを忘れてはいけません。その功績を後世にまで語り伝えるとともに、子どもたちの津波に対する意識を地域の財産として未来永劫守ります。そして、この誇れる子どもたちに対し、我々大人ができることは、釜石市の未来を担う子供たちが自らの未来に光り輝く希望を持つことができるまちづくりを強く推進していくことです。

1-3 復興まちづくりの基本目標

復興まちづくりは今回の大津波を通じて得られたまちづくりへの教訓や新たに繋がった内外の絆を活かし、釜石市の将来像の実現を目指します。前述した基本方針に沿った7の基本目標のもとで各種施策を展開し、「子どもたちの未来に希望の光があふれるまち釜石」を贈ります。

復興まちづくりの基本目標

(1) 災害に強い都市構造への抜本的転換

基本目標 1：暮らしの安全と環境を重視したまちづくり

基本目標 2：絆と支えあいを大切にするまちづくり

(2) この地で生き続けるための生活基盤の再建

基本目標 3：生活の安心が確保されたまちづくり

基本目標 4：人やもの、情報の交流拠点づくり

(3) 逆境をバネにした地域経済の再建

基本目標 5：ものづくり精神が息づくまちづくり

(4) 子どもたちが未来に希望を持てるまちづくり

基本目標 6：強く生き抜く子どもを育てるまちづくり

基本目標 7：歴史文化やスポーツを活かしたまちづくり

2 新たな光づくりへの挑戦

新たな光づくりに向けて、先に示した7の基本目標に沿って、次のような取り組みを展開します。

は主要プロジェクト

基本目標1：暮らしの安全と環境を重視したまちづくり

(1) 減災を重視したまちづくりの推進

地域の状況に応じた安全確保対策の推進

命を守る生活道路網の整備

防災意識づくりの推進

- ・ 防波堤、防潮堤、河川堤防などの防災基盤の早期復旧
- ・ 地域防災機能の強化
- ・ 避難場所及び避難路の再整備
- ・ 津波災害の被害想定及び検証
- ・ 危機管理体制の強化

(2) クリーンエネルギーの活用と普及

クリーンエネルギーの利用拡大

- ・ 森林整備と資源の活用
- ・ 海浜の復元と保全
- ・ 国立公園の再整備

基本目標 2：絆と支えあいを大切にするまちづくり

地域の絆のもとで暮らせるまちづくり

医療福祉介護機能の向上

- ・地域が一体となった安心子育て環境の整備
- ・見守りネットワークの再構築
- ・公共公益施設の適正配置と再整備

基本目標 3：生活の安心が確保されたまちづくり

復興公営住宅の整備

主要公共公益施設の再建

- ・地域コミュニティの維持再生
- ・電気、ガス、水道、下水道等の復旧整備
- ・被災者に対する生活支援や就業支援
- ・災害に強い住宅の整備
- ・応急仮設住宅の適正な維持管理

基本目標 4：人やもの、情報の交流拠点づくり

(1) 交通ネットワークと物流拠点機能の形成

高規格幹線道路・復興道路ネットワーク形成

新たな公共埠頭の整備

- ・釜石港の復旧及び機能向上
- ・国県道等主要幹線道路の復旧及び機能向上
- ・鉄道の復旧と利用促進

(2) 多様な交流の推進と拠点整備

中心市街地の再興

橋野高炉跡の世界遺産登録への取組み

- ・被災地支援活動の取込み
- ・グリーン・ツーリズムの展開
- ・海を活用したにぎわい空間の整備

基本目標 5：ものづくり精神が息づくまちづくり

スマートグリッドの導入

新産業拠点の形成

- ・クリーンエネルギー拠点の展開
- ・ものづくり産業の継承と新たな展開
- ・魚のまちの早期復活
- ・海洋研究拠点の形成と人材育成
- ・中小企業者への事業再開支援

基本目標 6：強く生き抜く子どもを育むまちづくり

防災モデル校の整備

- ・学校教育と心のケア対策の推進
- ・教育環境の整備
- ・被災校舎の早期復旧及び再建

基本目標 7：歴史文化やスポーツを活かしたまちづくり

津波記念館、鎮魂公園の整備

- ・震災の伝承と記念碑の整備
- ・釜石フィールドミュージアム（地域博物館構想）の推進
- ・芸術文化等の再構築
- ・ラグビーやトライアスロンを中心とした交流づくり

3 震災をのりこえる地域づくりの推進

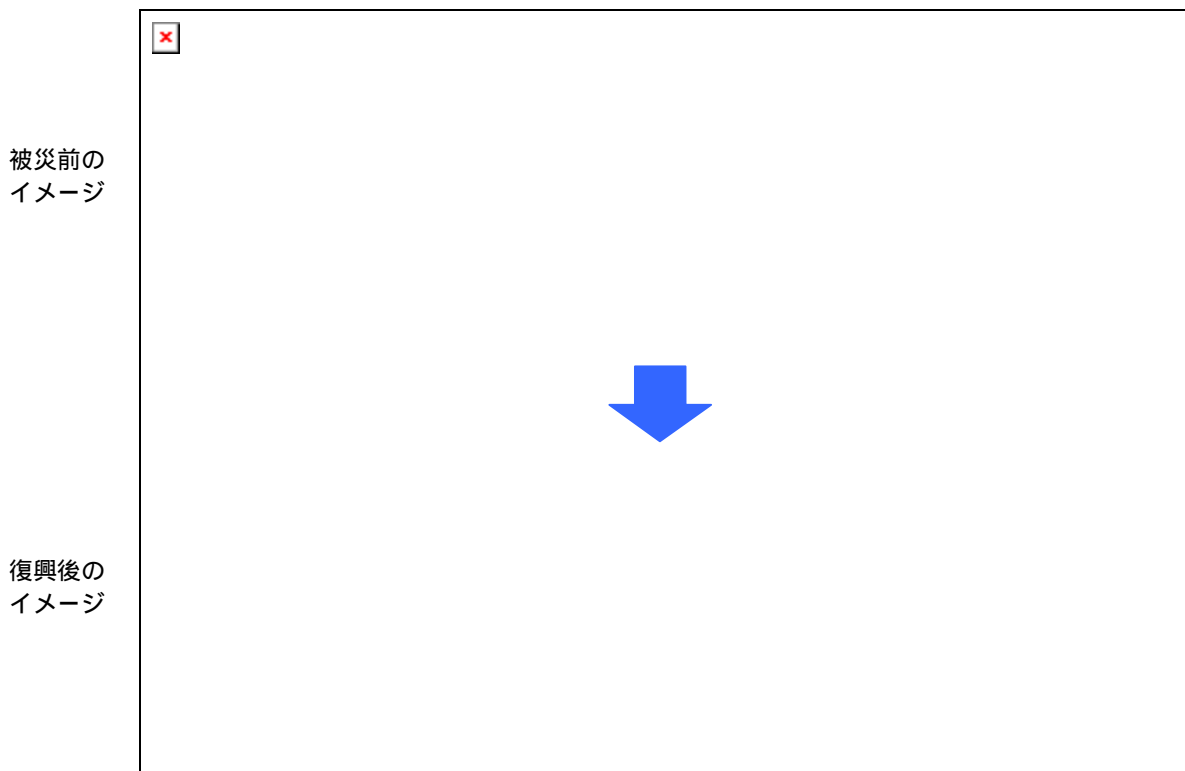
3-1 同じ悲しみを繰り返さないために

(1) 失われた命への追悼

津波は無情にも、私たちが愛する家族、友人、まちを一瞬にして呑み込みました。それまでの生活が一瞬にして奪われることを誰が想像することができたでしょう。私たちが経験した深い悲しみを繰り返さぬよう、失われた尊い命への追悼の意を、これからのまちづくり、暮らし方で表し、後世に伝えていきます。

(2) 暮らし方

東日本大震災をのりこえる地域づくりを進めるためには、市民の安全を何よりも優先して確保していく必要があります。そのため、複数の防潮施設による津波の防御、避難路、避難場所のネットワーク、津波に対する危険度に合わせて土地利用の誘導、避難ビルや建築物による対応により、安全な暮らし方を推進していきます。



本図は暮らし方の一例として示しています

エリア 1	エリア 2	エリア 3
既往最大(3.11)の津波が再来しても浸水しないエリア。	防潮堤を超える波に襲われた場合、浸水する可能性があるエリア。市民の生命は確実に守るとともに、財産被害を最小限にとどめる。	防潮堤を超える波に襲われた場合、確実に浸水するエリア。市民の生命だけは確実に守る。

(3) 地域連携網の強化

地域連携網の強化は、平常時の地域経済を支えるうえで重要であるとともに、災害時には命をつなぐルートとしてきわめて重要なことから、地域連携網の強化を推進していきます。

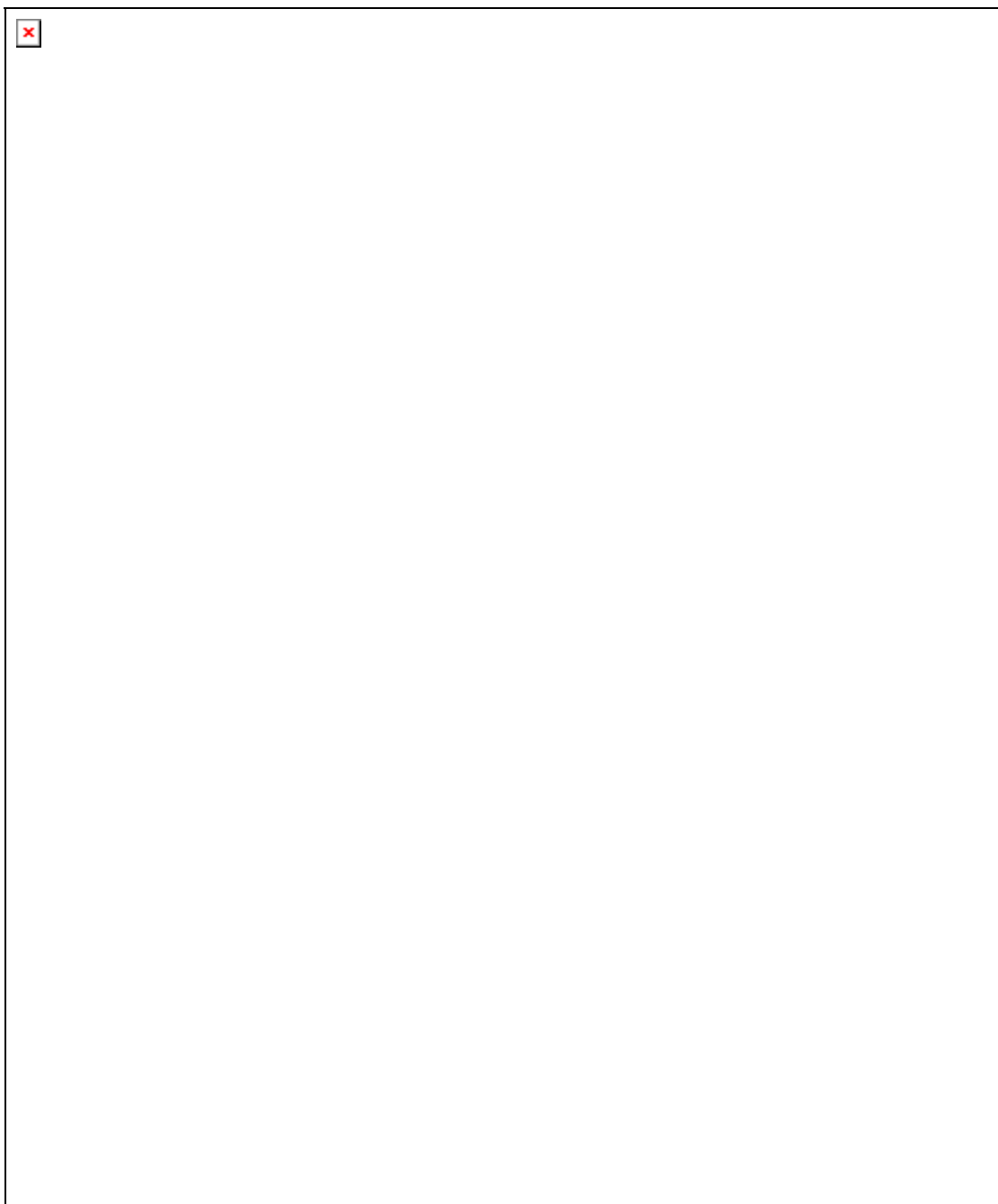


図 命をつなぐ地域連携網の整備イメージ

3-2 被災地域復興の考え方

(1) 鵜住居地域復興の考え方

- ・自然の再生に配慮したまちづくりの展開
- ・土地利用ゾーニングの明確化
- ・重畳する防浪施設整備や居住地の嵩上げ、高台移転による安全安心度の向上
- ・水産業の再生、観光交流拠点の整備などによる地域の活性化
- ・集落の集約による生活圏の再編成

安全に暮らせるまちの実現

- ・多重防御堤防、海岸林、水門整備など方式の導入
- ・鉄道、道路への防浪機能の導入
- ・居住地の嵩上げ、高台移転
- ・道路ネットワークの再編
- ・集落の再編整備

生活基盤づくり

- ・居住地の再編集約
- ・ライフラインの復旧整備
- ・複合機能住宅整備
- ・福祉介護施設整備

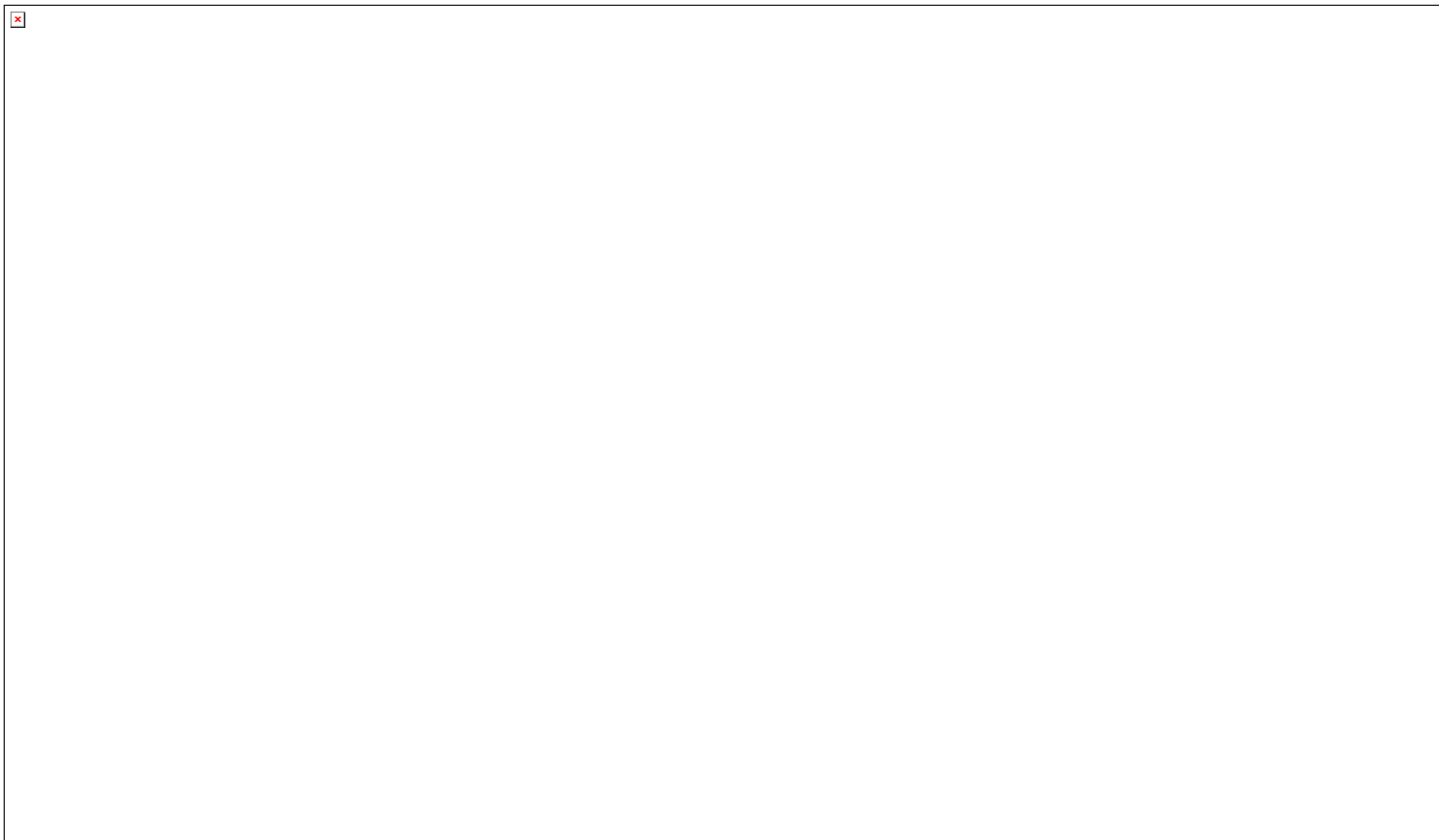
地域経済の再建

- ・水産業及び関連産業の振興
- ・観光交流産業の振興
- ・企業誘致の推進

新たな希望づくり

- ・ 防災教育拠点の整備
- ・ トライアスロンコースの復活
- ・ 海浜の再生
- ・ 鎮魂の森整備
- ・ 交流拠点「道の駅」整備
- ・ 教育施設群の整備
- ・ 番屋漁業の展開
- ・ 新規産業の創出

鵜住居地域復興整備イメージ



本図面は復興イメージを示したものであり、今後、詳細な調査、関係機関との協議、市民意見等により内容が大きく変わる可能性があります。



(2) 釜石東部地域復興の考え方

- ・ 既存市街地の防浪機能を強化
- ・ 水産ゾーン、商業ゾーン、住宅ゾーン等の明確化
- ・ にぎわい拠点を面的に展開し、集客性と回遊性の向上
- ・ 港湾機能の拡充による物流の活発化
- ・ 海岸付近の企業活動の早期再建

安全に暮らせるまちの実現

- ・ 湾口防波堤の復旧
- ・ 水際線対策（防潮堤、水門整備）
- ・ 陸地防波堤整備
- ・ 防浪ビル整備
- ・ 職住分離
- ・ 避難経路の確保

生活基盤づくり

- ・ 防浪ビル整備と市街地再編
- ・ 公共公益施設の整備
- ・ 複合機能住宅整備
- ・ ライフラインの復旧整備

地域経済の再建

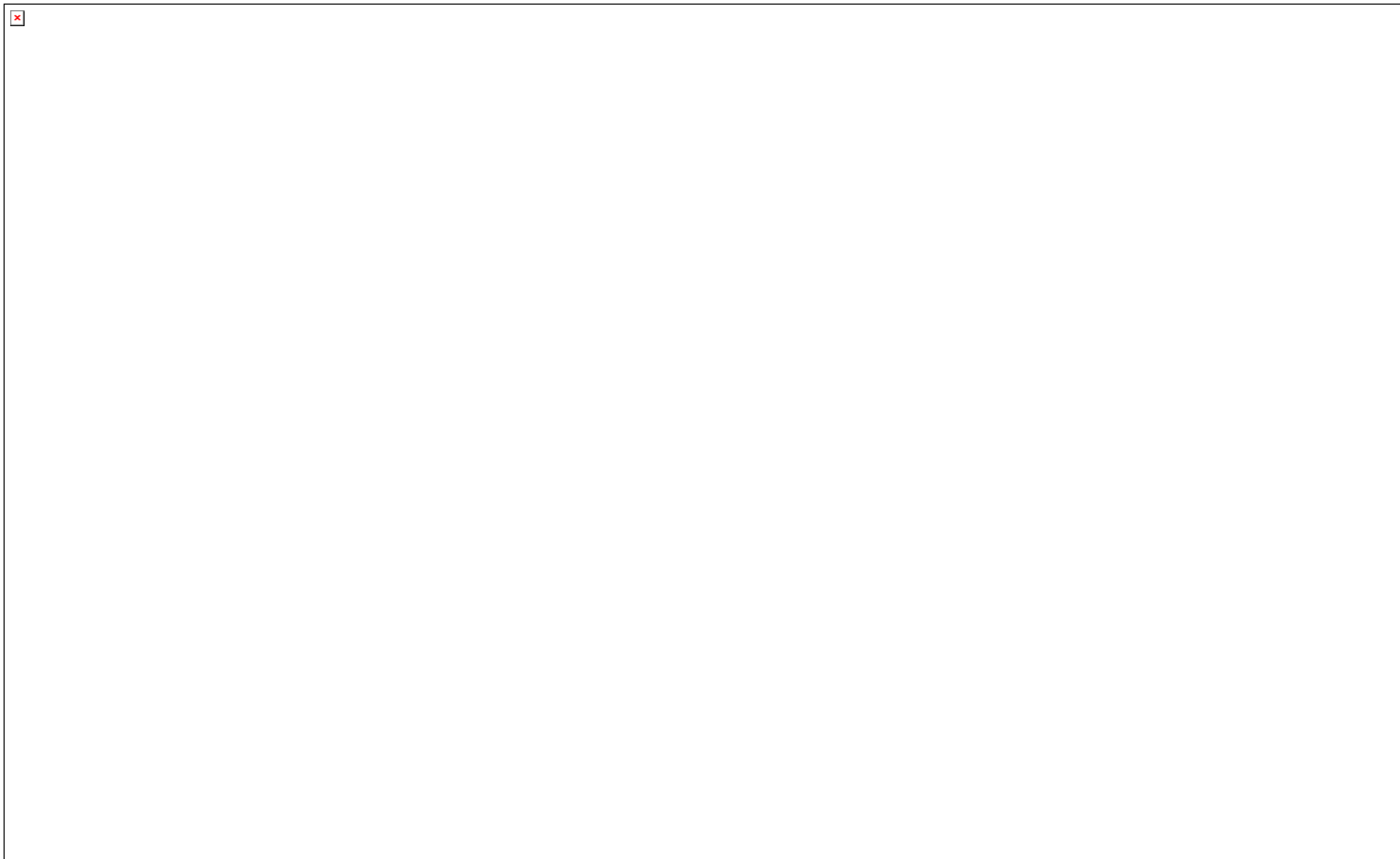
- ・ 水産業及び関連産業の振興
- ・ 観光交流拠点の整備
- ・ 商店街の再編整備
- ・ 港湾機能の強化

- ・ 製造業の復活

新たな希望づくり

- ・ 新魚市場の整備
- ・ 伝統的な地域の顔の復活（例；橋上市場・呑兵衛横丁のような）
- ・ 海岸観光交流拠点の整備
- ・ 祭り、イベントの展開

釜石東部地域復興整備イメージ



本図面は復興イメージを示したものであり、今後、詳細な調査、関係機関との協議、市民意見等により内容が大きく変わる可能性があります。



(3) 平田地域復興の考え方

- ・ 高台部に居住地を確保し、安全な居住空間を確保
- ・ 海岸付近では、水産業及び関連業種を展開
- ・ 研究開発施設の再建により研究開発機能の強化

安全に暮らせるまちの実現

- ・ 水際線対策（防潮堤、水門整備）
- ・ 高台移転の促進

生活基盤づくり

- ・ 住宅団地整備
- ・ 複合機能住宅整備
- ・ 道路ネットワークの再編
- ・ ライフラインの復旧整備

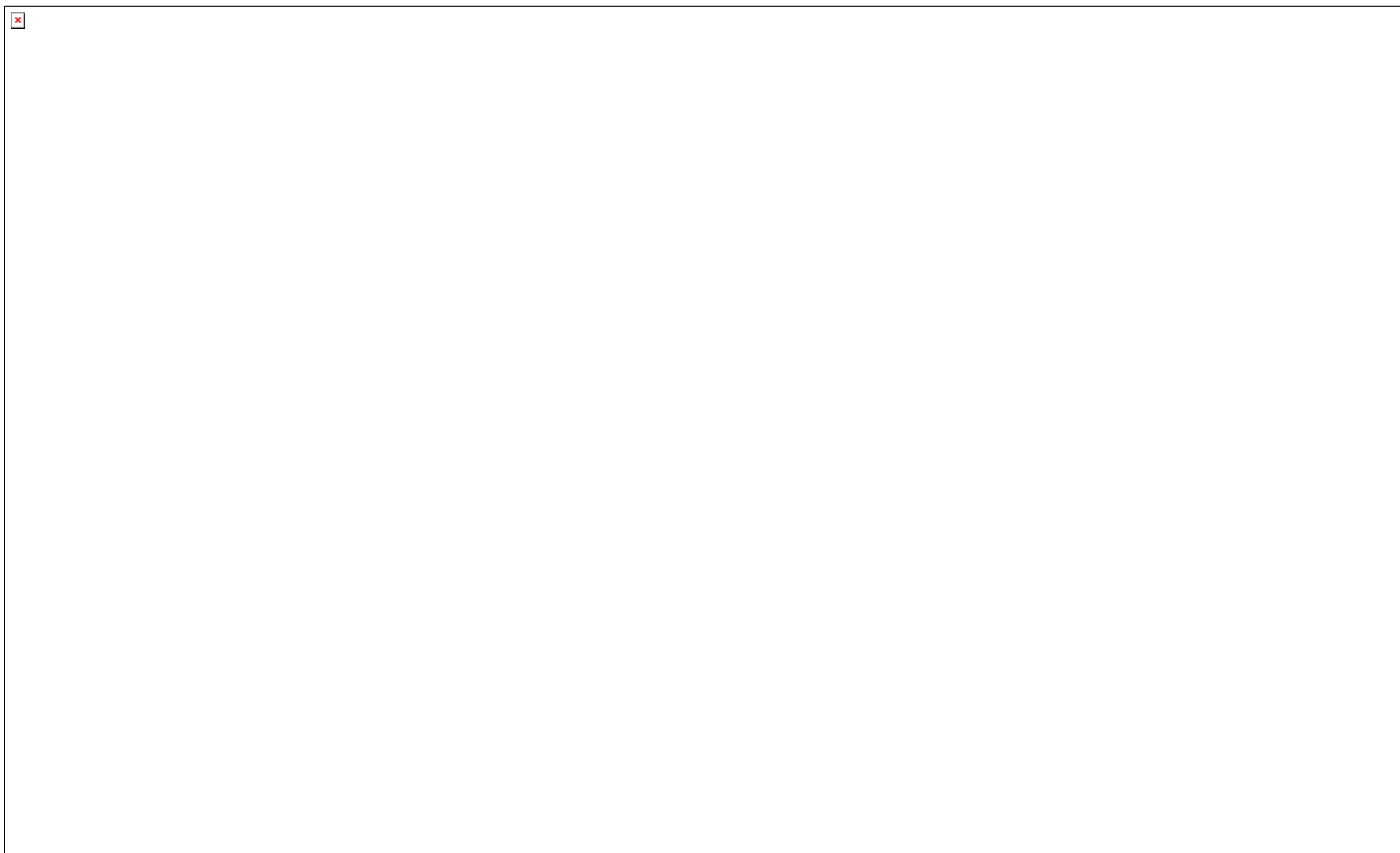
地域経済の再建

- ・ 水産業及び関連産業の振興
- ・ 研究開発拠点整備

新たな希望づくり

- ・ 住宅団地整備
- ・ 復興生活道路整備
- ・ 三陸鉄道の復旧
- ・ 研究開発ゾーンの復旧

平田地域復興整備イメージ



本図面は復興イメージを示したものであり、今後、詳細な調査、関係機関との協議、市民意見等により内容が大きく変わる可能性があります。



(4) 唐丹地域復興の考え方

- ・ 高台部に住宅地を確保し、安全な居住空間を確保
- ・ 海岸付近では、水産業及び関連業種を展開
- ・ 地域資源を活用した観光交流拠点を整備
- ・ 集落の集約による生活圏の再編成

安全に暮らせるまちの実現

- ・ 水際線対策（防潮堤、水門整備）
- ・ 高台移転の促進
- ・ 集落の再編整備
- ・ 道路ネットワークの再編

生活基盤づくり

- ・ 居住地の再編集約
- ・ ライフラインの復旧整備

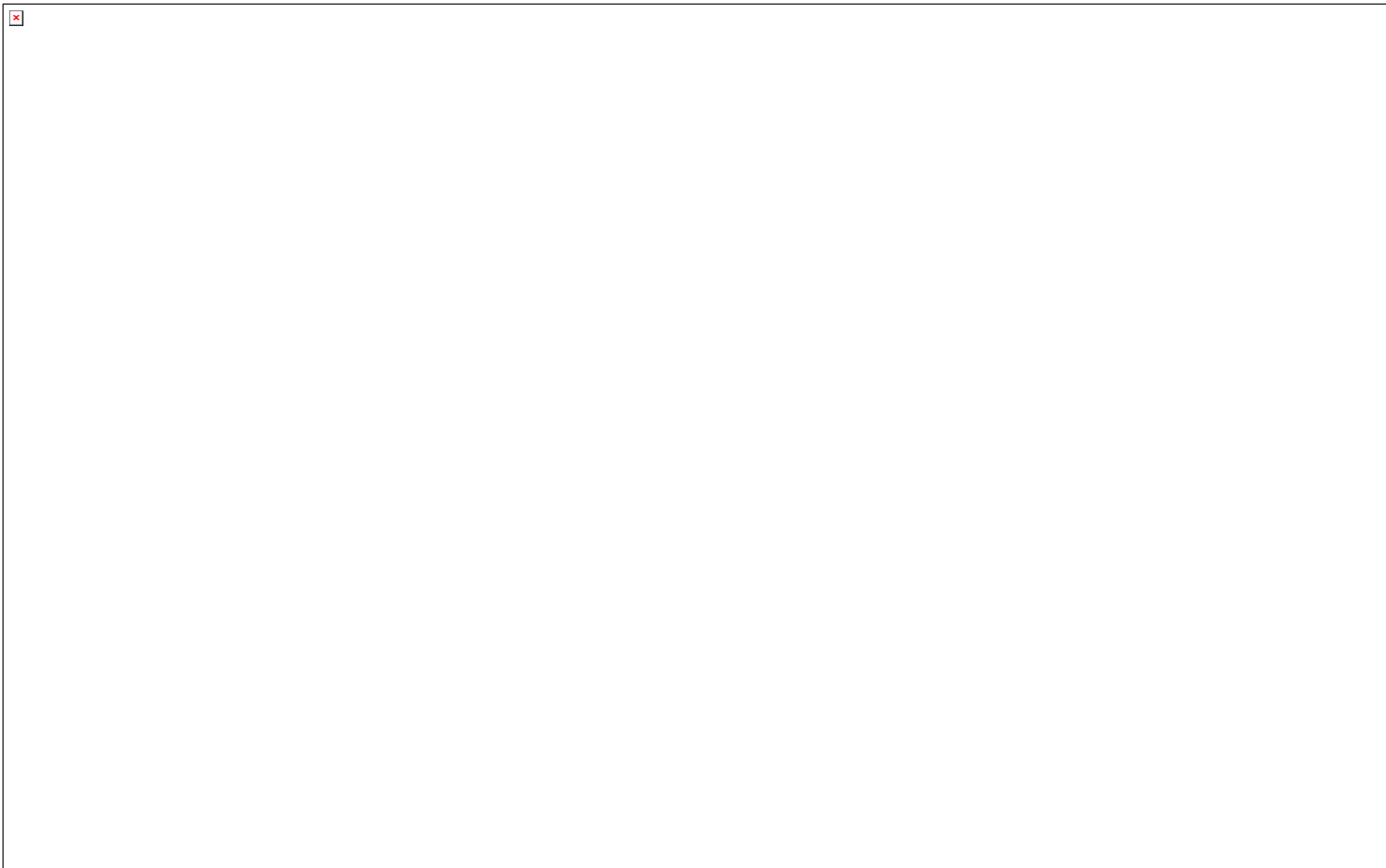
地域経済の再建

- ・ 水産業及び関連産業の振興
- ・ 観光交流産業の振興

新たな希望づくり

- ・ 桜による地域振興（並木の再生、まつり広場整備）
- ・ 教育施設群の整備
- ・ 鮭川の復活と観光化
- ・ 三陸鉄道の復旧
- ・ 自然レクゾーンの整備

唐丹地域復興整備イメージ



本図面は復興イメージを示したものであり、今後、詳細な調査、関係機関との協議、市民意見等により内容が大きく変わる可能性があります。



3-3 復興支援地域活性化の考え方

中妻地域、小佐野地域、甲子地域、栗橋地域は、津波被害を免れることはできたものの、身内を失い、インフラや公共サービス機能が停止した上、被災者の受入など、これまでと大きく異なる生活を余儀なくされています。

中妻地域、小佐野地域、甲子地域、栗橋地域といった復興支援地域が活性化しなければ、鶴住居地域、釜石東部地域、平田地域、唐丹地域といった被災地域の復興を果たすことはできません。

被災地域の復旧復興が急がれるものの、釜石市民が一丸となってスクラムを組み、釜石の復興を前へ前へと進めていくため、復興支援地域が抱える課題に適切な対応を図りながら、民間活力による活性化を基本に、土地利用計画の見直しも含めた土地利活用の高度化を推進していきます。そして、未来の子どもたちに新たな希望の「光」を贈ります。